



News Letter



Offshore Tech Japan 2026

内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」（以下、SIP 海洋課題）は、2026年1月28日から30日にかけて東京ビッグサイト南1ホールにて開催された Offshore Tech Japan（以下、OTJ）2026 に出展しました。令和5年4月に閣議決定された第4期海洋基本計画において着実に実施すべき施策としてその他の取組みとともに「海洋の産業利用の促進」、「科学的知見の充実」、「海洋におけるDXの促進」が掲げられました。今回の展示会では、このうちAUVを中心とした「海洋の産業利用の促進」の取組みに不可欠な技術開発シーズを示す機会となりました。



【南ホール入り口から見たパビリオン（中央奥）】

これまでの OTJ では、参加者がそれぞれ個別ブースで出展する形式となっておりましたが、今回は展示会場の一体感の醸成・演出と来場者の視認性向上の観点から、展示会場の中央に「海洋ロボティクスパビリオン」（以下、パビリオン）を設置し、海洋開発を支える国内の最先端ロボティクスが一堂に会する場としました。また、パビリオンには、民間企業各社や大学のブース以外にも、国の政策を紹介する内閣府総合海洋政策推進事務局、国土交通省総合政策局海洋政策課が出展されました。

SIP 海洋課題では、その一翼として、課題取り組みの成果と進捗状況を紹介するパネル、航行型 AUV（自律型無人探査機）「しんりゅう 6000」の模型、海底設置型長期観測装置「江戸っ子 1 号 COEDO」の実機に加え、新たに研究開発された小型安価ホバリング型 AUV 「えぼし」（代替機）を展示しました。



【左：内閣府総合海洋政策推進事務局ブース】
【右：東京大学ソーントン研究室ブース】



開催期間中は、1,000 名を越える来場者にご覧頂くとともに、1 月 29 日には内閣府総合科学技術・イノベーション会議の宮園議員と科学技術・イノベーション推進事務局の川上審議官にご視察いただき、SIP 海洋課題で研究開発された海洋ロボティクスの成果に触れて頂く機会となりました。とりわけ小型安価 AUV「えぼし」は AUV の普及に向けた革新的な存在として多くの来場者の耳目を集めました。また、地球深部探査船「ちきゅう」を用いた南鳥島周辺 EEZ 海域でのレアアース泥揚泥機器接続試験の航海のパネルや動画、また海洋玄武岩 CCS に強い関心が寄せられました。



【内閣府総合科学技術・イノベーション会議 宮園議員（左から 3 番目）】



【内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 川上審議官（左）】



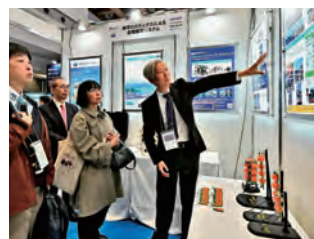
【採鉱試験パネル説明】



【海洋玄武岩 CCS パネル説明】



【共同出展ブース】

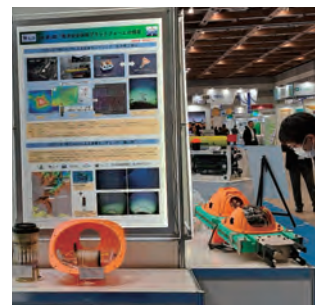


【共同出展ブース説明】

SIP 海洋課題のブースに加え、今回は新しい取り組みとして、本課題と関連性の深い国内スタートアップ企業 4 社（次世代海洋調査株式会社、株式会社 FullDepth、株式会社 OceanFluidics 及び株式会社 UMIAILE）共同によるブース展示を取り纏め、新たな「海洋環境モニタリングシステム」のコンセプトを提示しました。それぞれのスタートアップ企業の強みをシステムとして連携させる方式として、固定式長期観測装置である「江戸っ子 1 号」を海中に展開し、広域に観測する小型 AUV「えぼし」や海面を航走する小型 ASV（自律型無人水上機）と音響通信技術で結び連携させることで、海面から浅海や深海に至る海中、さらに海底面とその下の地層を対象とした多面的な海底・海中環境調査やモニタリングを効率的・効果的に実施できることを示すとともに、クライアントのニーズを把握し、最新の環境 DNA 連続採取装置を駆使し、昨今問題となっている表層水温などの水塊挙動把握や魚種などの生態系観測を行うことによって、クライアントが必要とする情報やソリューションをより効率的かつ安価で提供するという革新的なデータプロバイディングの仕組みを展示しました。

OTJ ではブース展示のほか、出展者プレゼンテーションにも参加。多くの聴衆が参加する中、本課題テーマ 3 の藤原テーマリーダーが「海の見える化」最前線～SIP での海洋ロボティクス開発状況～」と題した講演を、また株式会社 OceanFluidics の福場代表取締役が「環境 DNA 技術の普及を支えるサンプリング技術」と題した講演を行いました。

SIP 海洋課題は、これからも、これまで研究開発されてきた技術と成果の社会実装に向けた取組みをより一層加速化していきます。



【左上：ASV】
【左下：小型 AUV「えぼし」】
【右：環境 DNA 自動採取装置】

